



Title	学会消息
Author(s)	
Citation	大阪大学経済学. 2024, 74(1・2・3), p. 46-64
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/98826
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

学 会 消 息

(2023 年 4 月 1 日～ 2024 年 3 月 31 日)

人 事 異 動

加藤明久は、2023 年 4 月 1 日付けをもって日本銀行金融研究所研究員から本研究科講師に採用された。（講座外）

佐藤秀昭は、2023 年 4 月 1 日付けをもって摂南大学経営学部経営学科講師から本研究科講師に採用された。（歴史分析講座）

五十嵐未来は、2023 年 4 月 1 日付けをもって筑波大学ビジネスサイエンス系日本学術振興会特別研究員から本研究科講師に採用された。（ビジネス講座）

村宮克彦准教授は、2023 年 4 月 1 日付けをもって本研究科教授に昇任した。（ビジネス講座）

Benjamin Michel Claude Poignard 講師は、2023 年 4 月 1 日付けをもって本研究科准教授に昇任した。（応用経済講座）

勝又壯太郎准教授は、2023 年 5 月 1 日付けをもって本研究科教授に昇任した。（経営情報講座）

YE MINGQI は、2023 年 9 月 1 日付けをもって本研究科招へい研究員から本研究科助教に採用された。（講座外）

松井博史は、2023 年 10 月 1 日付けをもってデロイト トーマツ コンサルティング合同会社から本研究科教授に採用された。（政策分析講座）

開本浩矢教授は、2024 年 3 月 31 日付けをもって本研究科長・本学部長の任期を満了した。

延岡健太郎教授（経営情報講座）は、2024 年 3 月 31 日付けをもって本研究科を定年退職した。

霧生拓也講師（ビジネス講座）は、2024 年 3 月 31 日付けをもって本研究科を退職した。

学会・講演会行事

恒例の経済学会講演会が、下記の通り開催された。

日時 2023 年 12 月 21 日

場所 法経講義棟 1 番講義室

講師 大阪大学名誉教授 猪木武徳 氏

演題 経済学—この 60 年を振り返る—

◇教員が、2023 年度に発表した著書および論文、研究報告等と、受け又は任せられた学位、学術賞、学外活動は、下記のとおりである。

鳩澤 歩

[著書]

鳩澤歩 (2023 年 10 月). 「ナチ経済史研究の現状—欧米における研究から」大阪経済大学日本経済史研究所編『歴史からみた経済と社会：日本経済史研究所開所 90 周年記念論文集』(pp.927–961). 思文閣出版。

[その他]

鳩澤歩 (2023 年 4 月). 「『Lilac の夢路』の時代」『TAKARAZUKA』(pp.25–26). 宝塚大劇場雪組公演 2023 年 4 月 22 日 – 5 月 28 日／東京宝塚劇場雪組公演 2023 年 6 月 17 日 – 7 月 16 日。

[研究報告・研究発表]

鳩澤歩 (2023 年 5 月 26 日). 「戦前・戦中期日本鉄道職員の「ドイツ認識」と「ドイツ経験」」社会経済史学会第 92 回全国大会、九州大学。

鳩澤歩 (2023 年 8 月 7 日). 「「ドイツ」経営史の観点から」[コメント]. 経営史学会関西部会大会（近現代ポーランド経済における「連続」と「断絶」—ダイナミックなシステム変化の中での政府／国民・民族／企業）. 関西学院大学。

鳩澤歩 (2023 年 11 月 20 日). 「“Was a ‘Reichsbahn’ before the First World War necessary?: A reassessment of railway integration and nationalization” (with T. Hidaka) を中心に」東京大学経済史研究会、東京大学。

Banzawa, A., & Hidaka, T. (2024, January 4). *Was a ‘Reichsbahn’ before the First World War necessary?: A reassessment of railway integration and nationalization*. Research Meeting of Economic History at Graduate School of Economics, Osaka University.

鳩澤歩 (2024 年 1 月 26 日). 「1920 – 30 年代の満鉄とドイツ—日本帝国圏鉄道の国際関係を考察するために」第 11 回帝国圏鉄道史研究会、東京大学。（オンライン）

[学外活動]

企業家研究フォーラム 幹事・フォーラム賞選考委員、任命権者・企業家研究フォーラム学会長、2006 年 4 月 1 日 –. (継続)

関西学院大学商学部 非常勤講師、任命権者・関西学院大学学長、2007 年 4 月 1 日 –. (継続)

公益法人財団寺西育英会 監事、任命権者・公益法人財団寺西育英会理事長、2011 年 4 月 1 日 –. (継続)

同志社大学商学部 非常勤講師、任命権者・同志社大学学長、2014 年 4 月 1 日 –. (継続)

鉄道史学会 理事・編集委員会委員、任命権者・鉄道史学会長、2021 年 4 月 1 日 –. (継続)

社会経済史学会 理事・編集委員会委員、任命権者・社会経済史学会代表理事、2023 年 10 月 –.

Wirawan Dony Dahana

[論文]

Sakiyama, R., Dahana, W. D., Baumann, C., & Ye, M. (2023, May). Cross-industrial study on satisfaction-commitment-PWOM linkage: The role of competition, consumption visibility, and service relationship. *Journal of Business Research*, 160, 113715.

Ye, M., Dahana, W. D., Baumann, C., & Li, X. (2023, May-June). When does media multitasking induce store visit and conversion? The influence of motivational factors. *Electronic Commerce Research and Applications*, 59, 101256.

Abdulsalam, M., & Dahana, W. D. (2023, June). The nexus between environmentally responsible behavior and destination attractiveness: The mediating role of place attachment.『大阪大学経済学』73(1), 1–15.

Ali, A. R. S. I., & Dahana, W. D. (2023, November). What inhibits consumers in emerging countries from engaging in status consumption? A latent class conjoint analysis approach. *International Journal of Emerging Markets*, 18(9), 2765–2789.

Lu, Z., & Dahana, W. D. (2024, March). Frugal innovation to customers in developed markets: a conjoint analysis.『大阪大学経済学』73(4), 30–51.

[研究報告・研究発表]

Ye, M., Dahana, W. D., Baumann, C., & Katsumata, S. (2023, June 22). *The effect of television-viewing motivation and individual traits on zapping behavior*. 2023 Global Marketing Conference, Lotte Hotel Seoul, Seoul.

[学外活動]

日本マーケティング・サイエンス学会 研究員, 任命権者・日本マーケティング・サイエンス学会代表理事, 2016年4月1日 – 2023年6月30日.

日本マーケティング・サイエンス学会 編集委員, 任命権者・日本マーケティング・サイエンス学会代表理事, 2021年4月1日 –. (継続)

日本マーケティング・サイエンス学会 理事, 任命権者・日本マーケティング・サイエンス学会代表理事, 2023年7月1日 –.

堂目 卓生

[著書]

Dome, T., & Zwitter, A. (2023, November). *Meta-Science: Toward a science of meaning and complex solutions*. University of Groningen Press.

[研究報告・研究発表]

堂目卓生 (2023年4月8日). 「目指すべき社会を考える—アダム・スミスを起点にして」ナレッジフォーラム, 一橋大学如水会館.

堂目卓生(2023年8月5日). 「目指すべき社会を考える—アダム・スミスを起点にして」西園寺塾, 立命館大学.

堂目卓生 (2023年8月23日). 「アダム・スミスに学ぶ共感の経済—目指すべき社会を考える」 東京理科大学. (オンライン)

堂目卓生 (2023年9月19日). 「共感から始まる経済—アダム・スミスを起点に」 クラブヒルサイド・セミナー, クラブヒルサイドサロン.

堂目卓生 (2023年10月15日). *Transcending modernity: What is a society where “no one is left behind”?* International Workshop on Cross-cutting Achievement of the SDGs and Embodiment of the Declaration of Life, Examined from the Multiple Perspectives of Economy, Work, and Community Development, 中之島センター.

堂目卓生 (2023年11月14日). 「目指すべき社会を考える—アダム・スミスを起点にして」 Global & General Leader 研修, 三井住友信託銀行.

堂目卓生 (2024年1月14日). 「「いのち」を支える共感経済に向けて—アダム・スミスを起点として」 京都大学経営管理学院・みずほ証券寄附講座 特別講座. (オンライン)

堂目卓生 (2024年2月8日). 「目指すべき社会を考える—アダム・スミスを起点にして」 関西財界セミナー, 京都国際会議場.

堂目卓生（2024年2月13日）。「共感経済を求めて—アダム・スミスを起点に」日本工業俱楽部
第547回素修会、日本工業俱楽部。

堂目卓生（2024年3月15日）。「「いのち」に立ち返える意識と行動～「いのち会議」と「いのち宣言」
～」サイエンスアゴラ、中之島センター。

[学外活動]

日本学術会議 連携会員、任命権者・日本学術会議、2023年10月1日-.

Pierre-Yves Donzé

[著書]

カミーユ ゴルジェ・ピエール＝イヴ ドンゼ・クロード ハウザー（2023年4月）。『駐日スイス
公使が見た第二次世界大戦：カミーユ・ゴルジェの日記』（鈴木光子訳）。大阪大学出版会。

Donzé, P.-Y. (2023, July 11). Collective entrepreneurship and the development of private clinics in Geneva,
1860–2020. In Pérez, P. F., & San, R. E. (Eds.), *Collective Entrepreneurship in the Contemporary
European Services Industries: A Long Term Approach* (pp.29–45). Emerald Group Publishing Ltd.

ピエール＝イヴ ドンゼ（2023年8月）。「ジーメンス—収益性の向上をめざす選択と集中の戦略—」
谷口明丈編『総合電機企業の形成と解体：「戦略と組織」の神話、「選択と集中」の罠』（第9章）。
有斐閣。

Donzé, P.-Y. (2023, October). *Histoire sociale et économique de la chronométrie*. Alphil.

[論文]

Xia, Q., & Donzé, P.-Y. (2023, July 1). Innovation in the Japanese tea industry, 1970–2020. *Journal of
Evolutionary Studies in Business*, 8(2), 106–137.

[研究報告・研究発表]

ピエール＝イヴ ドンゼ（2023年7月8日）。「時計産業におけるデザインの経営史—ロレックス
とセイコーの比較研究」企業家研究フォーラム、大阪。

Donzé, P.-Y., & Pitteloud, S. (2023, August 26). “Waiting for Better Days”: Nestlé’s Human Resource
Management in the post-colonial world (1950–1990). Annual Conference of the European Business
History Association, Oslo, Norway.

Donzé, P.-Y., Hirano, T., & Sakai, K. (2023, August 26). Housewives and the growth of the Japanese
electrical appliance industry, 1950–1990. Annual Conference of the European Business History
Association, Oslo, Norway.

[学術賞]

Donzé, P.-Y. (2023, June 1). Prize for the Best Book in Business History. International Conference on
Business History, France.

[学外活動]

Associate editor, *Journal of Evolutionary Studies in Business*, 任命権者・Editor in chief, 2016年1月1
日-。（継続）

Visiting Professor, University of Fribourg, Switzerland, 任命権者・Dean of the Faculty of Letters, 2017
年2月1日-。（継続）

Co-editor, *Business History*, 任命権者・Editor in chief, 2021年1月2日-。（継続）

Secretary, the European Business History Association (EBHA), 任命権者・Elected by the council, 2022
年1月1日-。（継続）

Visiting professor, EM Normandie Business School, France, 2022年2月1日-。（継続）

経営史学会国際交流委員会長, 任命権者・経営史学会会長, 2023年1月1日-。（継続）

福重 元嗣

[学外活動]

日本応用経済学会 常務理事, 任命権者・日本応用経済学会, 2010年6月-. (継続)

日本学術会議 連携会員, 任命権者・日本学術会議, 2014年10月1日-. (継続)

日本経済学会 監事, 任命権者・日本経済学会, 2020年5月-. (継続)

日本経済政策学会 会長, 任命権者・日本経済政策学会, 2022年5月-. (継続)

応用地域学会 運営委員, 任命権者・応用地域学会, 2022年7月-2024年3月.

日本国際経済学会 常務理事, 任命権者・日本国際経済学会, 2022年10月-. (継続)

福田 祐一

[学外活動]

Associate Editor, *Asia-Pacific Financial Markets*, 任命権者・日本金融・証券計量・工学学会, 2012年5月-. (継続)

開本 浩矢

[著書]

開本浩矢・橋本豊輝(2023年9月).『心理的資本をマネジメントに活かす：人と組織の成長を加速する「HERO」を手に入れる』中央経済社.

[その他]

開本浩矢(2023年4月).「中小企業の人手不足問題への対応策：生産性向上が先か、賃上げが先か」『企業診断』70(4), 28-31.

開本浩矢(2023年4月).「組織を変える心理的資本」『Report：情報労連リポート』40(6), 14-15.

開本浩矢(2024年2月).「2024春闘と新たな人的資本主義」『Int'l eco wk—国際経済労働研究』79(2), 5-13.

[学外活動]

兵庫県男女共同参画審議会 委員, 任命権者・兵庫県知事, 2016年2月1日-. (継続)

日本学術会議 連携会員, 任命権者・日本学術会議会長, 2017年10月1日-. (継続)

宝塚市男女共同参画推進審議会 委員, 任命権者・宝塚市長, 2018年4月1日-. (継続)

神戸市男女共同参画審議会 委員, 任命権者・神戸市長, 2018年7月1日-. (継続)

兵庫県資金管理委員会 委員, 任命権者・兵庫県知事, 2021年4月1日-. (継続)

関西生産性本部人材開発委員会 委員, 任命権者・関西生産性本部会長, 2021年4月1日-. (継続)

日本経営行動科学学会 副会長, 任命権者・日本経営行動科学学会会長, 2022年4月1日-2024年3月31日.

廣田 誠

[著書]

廣田誠(2023年10月).「阪神電気鉄道の昭和史」大阪経済大学日本経済史研究所編『歴史からみた経済と社会：日本経済史研究所開所90周年記念論文集』(pp.483-514). 思文閣出版.

廣田誠(2024年2月).「明治期の経済」「昭和恐慌前後の経済」「戦時下の経済と交通（1）戦時下の経済」「経済の復興」「躍進する八尾の経済」「変動する八尾の経済」「八尾西武の開業にみるセゾングループの戦略」八尾市史編纂委員会・市史編集委員会編『八尾市史 通史編2 近世～現代、新版』(第IV部第二章第三節 pp.330-343, 第IV部第三章第三節 pp.391-408,

第IV部第四章第三節 pp.450–456, 第V部第一章第二節 pp.484–491, 第V部第二章第二節 pp.534–545, 第V部第三章第二節 pp.593–601, 第V部第三章コラム 5 pp.627–628). 八尾市.

[その他]

廣田誠・松永和浩 (2023年12月). 「第一回（令和四年度）適塾見学会の記録」『適塾』56, 63–74.

廣田誠 (2024年2月). 「企業家研究と企業家研究フォーラムの今後の発展に向けて」[企業家研究フォーラム 20周年記念シンポジウムについて]. 『企業家研究』23, 87–92.

廣田誠 (2024年2月). 「問題提起」[2023年度年次大会共通論題 企業の社会連携活動について考える—その現状と将来に向けての課題—]. 『企業家研究』23, 93–98.

[書評]

廣田誠 (2023年11月). 「書評『近鉄沿線の近現代史』三木理史著, クロスカルチャー出版」『鉄道史学』41, 66–69.

[研究報告・研究発表]

廣田誠 (2023年7月9日). 「問題提起」[2023年度年次大会共通論題 企業の社会連携活動について考える—その現状と将来に向けての課題—]. 企業家研究フォーラム 2023年度年次大会, 大阪産業創造館 4階イベントホール.

廣田誠(2023年12月23日). 「戦時下から高度成長期の大坂府八尾市における中小企業支援組織」企業家研究フォーラム 2023年度冬季研究会（経営史学会関東部会と共催）. (オンライン)

[学外活動]

市場史研究会 事務局世話人, 任命権者・市場史研究会代表, 2000年7月1日－. (継続)

神戸女学院大学人間科学部 非常勤講師「食糧経済学」, 任命権者・神戸女学院大学学長, 2002年4月1日－. (継続)

『経済史研究』(大阪経済大学日本経済史研究所) 編集委員, 任命権者・大阪経済大学日本経済史研究所所長, 2014年3月1日－. (継続)

『新版八尾市史』専門部会 部会員（近現代部会）, 任命権者・八尾市長, 2015年4月1日－2024年3月31日.

企業家研究フォーラム 理事, 任命権者・企業家研究フォーラム会長, 2015年7月18日－. (継続)
阪和育英会 理事, 任命権者・阪和育英会理事長, 2016年7月1日－. (継続)

龍谷大学経営学部 非常勤講師, 任命権者・龍谷大学学長, 2018年4月1日－. (継続)

放送大学大阪学習センター 客員教授, 任命権者・放送大学大阪学習センター所長, 2019年4月1日－2024年3月31日.

企業家研究フォーラム学会 副会長(企画委員長), 企業家研究フォーラム会長, 2021年7月10日－.
(継続)

社会経済史学会 評議員, 任命権者・社会経済史学会代表理事, 2023年1月1日－. (継続)

五十嵐 未来

[研究報告]

Igarashi, M., & Terui, N. (2023, June 10). *A co-evolution model of network formation and content generation*. 45th ISMS Marketing Science Conference, Miami, United States.

Igarashi, M., & Terui, N. (2023, July 17). *A coevolution model of network formation and content generation on social reading platform*. 64th ISI World Statistics Congress, Ottawa, Canada.

五十嵐未来・照井伸彦 (2023年9月4日). 「ユーザーごとの動的異質性を考慮したコンテンツ生成および消費行動モデルの構築」2023年度統計関連学会連合大会, 京都大学.

五十嵐未来・照井伸彦（2024年1月19日）。「二面性市場におけるコンテンツの生成と消費行動モデルの構築」科研費シンポジウム「ベイズ統計学の最前線：理論から実践まで」、明治大学。

石黒 真吾

[論文]

Ishiguro, S., & Yasuda, Y. (2023, April). Moral hazard and subjective evaluation. *Journal of Economic Theory*, 209, 105619.

祝迫 達郎

[論文]

Iwaisako, T. (2023, September). Optimal mix of R&D subsidy and patent protection in a heterogeneous-industry R&D-based growth model. *Journal of Economic Dynamics and Control*, 154, 104723.

[研究報告・研究発表]

祝迫達郎（2023年7月21日）。「最適特許期間の動学的一般均衡分析」中京大学経済研究所セミナー、中京大学。

[学外活動]

Associate Editor, *Economic Modelling*, 任命権者・Editor, *Economic Modelling*, 2020年4月21日－. (継続)

Associate Editor, *Journal of Economics*, 任命権者・Editor, *Journal of Economics*, 2023年5月12日－.

笠原 晃恭

[研究報告・研究発表]

笠原晃恭（2023年5月20日）。“Conditional currency momentum portfolios” by 酒本隆太 [討論]. 日本ファイナンス学会第31回大会, 早稲田大学。

笠原晃恭（2023年5月20日）。“Windfalls? Costs and benefits of investment tax incentives due to financial constraints” by Masanori Orihara [討論]. 日本ファイナンス学会第31回大会, 早稲田大学。

[学術賞]

笠原晃恭（2023年11月22日）. 令和5年度大阪大学賞（若手教員部門），大阪大学。

加藤 明久

[論文]

Kato, A., & Ríos Rull, J. V. (2023, June). A protocol for repeated bargaining. *Economics Letters*, 227, 111132.

[研究報告・研究発表]

Kato, A. (2023, June 20). *Optimal progressive income taxation and endogenous marriage and divorce*. 慶應義塾大学マクロ経済学ワークショップ, 慶應義塾大学。

Kato, A. (2023, October 27). *Optimal progressive income taxation and endogenous marriage and divorce decisions*. マクロ経済学研究会, 京都大学。

Kato, A. (2023, November 20). *Optimal progressive income taxation with endogenous marriage and divorce decisions*. ミクロ・マクロ経済分析：理論と実証, 名古屋大学。

Kato, A. (2024, February 22). *Optimal progressive income taxation with endogenous marriage and divorce decisions*. 現代経済学研究会セミナー, 東北大学。

加藤 隼人

[論文]

Kato, H., & Loebbing, J. (2023, November). Tax competition for automation capital. *RIETI Discussion Paper Series*, 23-E-078.

[研究報告・研究発表]

Haufler, A., & Kato, H. (2023, May 25). *A global minimum tax for large firms only: Implications for tax competition*. International Economics Seminar, Kyoto University.

Haufler, A., & Kato, H. (2023, November 22). *A global minimum tax for large firms only: Implications for tax competition*. 応用経済学研究会, 龍谷大学.

Haufler, A., & Kato, H. (2023, December 16–17). *A global minimum tax for large firms only: Implications for tax competition*. Hitotsubashi-Gakushuin Conference on International Trade and FDI, 学習院大学.

勝又 壮太郎

[論文]

西本章宏・勝又壮太郎 (2023年6月30日). 「消費者のメンタルアカウンティングにおける心理的所有感の価値拡大効果」『マーケティングジャーナル』43(1), 53–65.

Shimizu, C., & Katsumata, S. (2023, October 15). Embedded lead users in the organization and consumer lead users in the market. *Annals of Business Administrative Science*, 22(5), 75–89.

Katsumata, S., Nishimoto, A., & Kannan, P.K. (2023, November). Brand competitiveness and resilience to exogenous shock: Usage of smartphone apps during the COVID-19 pandemic. *Journal of Retailing and Consumer Services*, 75, 103453.

Yu, L., Wang, Y., Katsumata, S., Zhao, H., Wang, Y., & Jiang, X. (2024, March 1). Ocean and coastal tourism: National or regional culture on culinary selection of inbound tourists. *Ocean & Coastal Management*, 106981.

Zeng, Y., Katsumata, S., Zhang, Q., & Xi, L. (2024, March 1). Organizational inclusion and sustainable development: An empirical evidence from the context of Eastern culture. *Sustainable Development*, 1–15. (Online)

[学術賞]

西本章宏・勝又壮太郎 (2023年10月). マーケティングジャーナル2023/ベストペーパー賞「消費者のメンタルアカウンティングにおける心理的所有感の価値拡大効果」, 日本マーケティング学会.

[学外活動]

行動計量学会 和文誌編集委員, 任命権者・日本行動計量学会, 2015年5月25日-. (継続)

日本マーケティング学会 ジャーナル編集委員, 任命権者・日本マーケティング学会, 2019年4月1日-. (継続)

日本マーケティング・サイエンス学会 理事, 任命権者・日本マーケティング・サイエンス学会, 2019年7月1日-. (継続)

組織学会『組織科学』シニアエディター, 任命権者・組織学会, 2019年10月1日-. (継続)

日本消費者行動研究学会 理事, 任命権者・日本消費者行動研究学会, 2023年12月1日-.

葛城 政明

[著書]

Katsuragi, M. (2023, November). A case for social ontology: Why does reality matter for social sciences?

In Urai, K., Katsuragi, M., & Takeuchi, Y. (Eds.), *Realism for social sciences: A translational approach to methodology* (pp.3–17). Springer.

霧生 拓也

[論文]

Hibiki, Y., Kiri, T., & Hibiki, N. (2023, August). Optimal currency portfolio with implied return distribution in the mean-variance approach. *Asia-Pacific Financial Markets*. (Online)

[研究報告・研究発表]

Hibiki, N., Hibiki, Y., & Kiri, T. (2023, October 15). *Optimal currency portfolio with implied return distribution in the mean-variance model*. 2023 INFORMS Annual Meeting, Phoenix, Arizona, United States.

Kiri, T., & Hibiki, N. (2023, October 15). *The impact of macroeconomic announcements on risk, preference, and risk premium*. 2023 INFORMS Annual Meeting, Phoenix, Arizona, United States.

霧生拓也 (2023年11月23日). 「Recovery Theorem を用いた経済ニュースがリスクプレミアムに与える影響の定量化」中之島ワークショップ 金融工学・数理計量ファイナンスの諸問題 2023, 大阪大学.

霧生拓也 (2023年12月25日). 「金融実務の問題解決と管理工学」管理工学概論, 慶應義塾大学.

高 東也

[研究報告・研究発表]

高東也 (2023年5月12日). *Countercyclical elasticity of substitution*. マクロ経済学研究会, 大阪大学中之島センター.

高東也 (2023年6月15日). *Countercyclical elasticity of substitution*. 東北大学現代経済学研究会, 東北大学.

Koh, D. (2023, November 4). *Countercyclical elasticity of substitution*. Seminar at Sogang University, Sogang University, Korea.

Koh, D. (2023, November 18). *On the welfare cost of constrained female labor supply*. Osaka Workshop on Economics of Institutions and Organizations. (Online)

Koh, D. (2023, November 27). *Countercyclical elasticity of substitution*. OzMac Workshop, Monash University, Australia.

松村 真宏

[論文]

松村真宏・松下光範 (2023年6月). 「仕掛け学的アプローチによる交通に関わる行動変容の促進」『IATSS Review (国際交通安全学会誌)』48(1), 6–12.

[研究報告・研究発表]

陳薇・松村真宏 (2024年2月17日). 「チラシの置き方が配布率に与える影響に関する考察～巻きチラシ置き配りの仕掛け～」第14回仕掛け学研究会, 大阪大学.

趙嘉韻・松村真宏 (2024年2月17日). 「反転ポスターと鏡による注視率向上の試み」第14回仕掛け学研究会, 大阪大学.

日比野泰章・松村真宏 (2024年2月17日). 「服薬コンプライアンスの向上を目指した仕掛けの創出」第14回仕掛け学研究会, 大阪大学.

稻垣優美・松村真宏 (2024年2月17日). 「手作りスターによるレビューシステム」第14回仕

掛学研究会、大阪大学。

Litvina Angelina・松村真宏(2024年2月17日).「製造工場においてニアミスを減らすペンの仕掛け」
第14回仕掛学研究会、大阪大学。

宮本大雅・松村真宏(2024年2月17日). *The AEKI effect: When play leads to education.* 第14回仕
掛学研究会、大阪大学。

吉田圭織・松村真宏(2024年2月17日).「歩きスマホしてるのであれ?」第14回仕掛学研究会、
大阪大学。

三輪 一統

[論文]

Yamamoto, T., Taguchi, S., & Miwa, K. (2023, June). Are IPOs “overpriced”? Strategic interactions
between the entrepreneur and the underwriter.『同志社商学』75(1), 27–55.

[研究報告・研究発表]

三輪一統(2023年12月).「寡占市場におけるイノベーションの裁量的開示」日本経済会計学会
第4回秋季大会、北九州市立大学。

[学外活動]

Associate Editor, *Accounting Letters*, 任命権者・日本経済会計学会, 2017年7月1日-. (継続)

Associate Editor, *The Japanese Accounting Review*, 任命権者・*The Japanese Accounting Review*, 2019
年5月1日-. (継続)

村宮 克彦

[研究報告・研究発表]

村宮克彦・竹原均(2023年9月24日).「情報リスクのプライシング効果：リターン・ベースの
情報リスク指標に基づく検証」日本経営財務研究学会第47回全国大会、京都大学。

村宮克彦(2023年12月16日).「マジック8—ROE8%超プレミアムの検証」日本経済会計学
会第4回秋季大会、北九州市立大学。

[学外活動]

行動経済学会監事, 任命権者・行動経済学会, 2017年12月1日-. (継続)

日本経営財務研究学会評議員, 任命権者・日本経営財務研究学会, 2019年9月1日-. (継続)

行動経済学会学会誌『行動経済学』編集委員, 任命権者・行動経済学会, 2019年11月1日-. (継続)

Associate Editor, *Accounting Letters*, 任命権者・日本経済会計学会, 2020年4月1日-. (継続)

日本経営財務研究学会学会誌『経営財務研究』編集委員, 任命権者・日本経営財務研究学会,
2021年1月1日-. (継続)

日本経済会計学会学会誌『現代ディスクロージャー研究』編集委員, 任命権者・日本経済会計学会,
2021年4月1日-. (継続)

日本経済会計学会理事, 任命権者・日本経済会計学会, 2021年4月1日-. (継続)

西原 理

[論文]

Dong, L., Nishihara, M., & Yang, Z. (2023, November). Two-stage investment, loan guarantees and share
buybacks. *Journal of Economic Dynamics & Control*, 156, 104741

Nishihara, M., & Shibata, T. (2023, June). Optimal capital structure with earnings above a floor. *Discussion
Papers in Economics and Business*, 23–09. Graduate School of Economics, Osaka University.

[研究報告・研究発表]

西原理・芝田隆志（2023年8月31日）. *The effects of an earnings-based covenant on capital structure and firm value*. 京都大学数理解析研究所研究集会「ファイナンスの数理解析とその応用」, 京都大学, 京都。

Nishihara, M., & Shibata, T. (2023, September 6). *The effects of an earnings-based covenant on capital structure and firm value*. 6th International Conference on the Dynamics of Information Systems, Univerzita Karlova, Prague, Czech Republic.

西原理・芝田隆志（2023年9月14日）. *The effects of an earnings-based covenant on capital structure and firm value*. 日本オペレーションズ・リサーチ学会秋季研究発表会, 関西学院大学, 兵庫。

Nishihara, M., & Shibata, T. (2023, October 26). *The effects of a financial covenant on capital structure and firm value*. Vietnam Symposium in Banking and Finance, Banking Academy of Vietnam, Hanoi, Vietnam.

Nishihara, M., Shibata, T., & Chevalier-Roignant, B. (2023, November 11). *The effects of a financial covenant on capital structure and firm value*. 日本ファイナンス学会第5回秋季研究大会. (オンライン)

Nishihara, M., Shibata, T., & Chevalier-Roignant, B. (2023, December 18). *The effects of a financial covenant on capital structure and firm value*. CFE-CMStatistics, University of Applied Sciences, Berlin, Germany.

西原理（2024年3月7日）. 「コーポレートファイナンスの数理モデル」日本オペレーションズ・リサーチ学会春季研究発表会特別講演, 筑波大学, 茨城。

西原理（2024年3月16日）. 「コーポレートファイナンスの数理モデル」日本オペレーションズ・リサーチ学会関西支部記念講演会, 中央電気俱楽部, 大阪。

[学術賞]

西原理（2023年9月）. 日本オペレーションズ・リサーチ学会第13回研究賞, 日本オペレーションズ・リサーチ学会。

[学外活動]

日本オペレーションズ・リサーチ学会関西支部 運営委員, 任命権者・日本オペレーションズ・リサーチ学会関西支部長, 2019年4月1日-. (継続)

西脇 雅人

[研究報告・研究発表]

Nishiwaki, M. (2023, May 12). *How does vertical integration affect incentive to collude? A study of upstream collusion in vertically-related markets*. Applied Structural Econometrics Workshop, Singapore National University, Singapore.

Nishiwaki, M. (2023, August 24–26). *How does vertical integration affect incentive to collude? A study of upstream collusion in vertically-related markets*. European Association for Research in Industrial Economics, LUISS University, Italy.

Nishiwaki, M. (2024, March 22). *Cartel screening and damage estimation*. Joint Economics Symposium of 4 Leading Universities in Japan and Taiwan, Center for Public and Business Administration Education, Taiwan.

太田 亘

[著書]

太田亘(2023年9月). 「日本の株式市場における流動性の変遷」祝迫得夫編『日本の金融システム：ポスト世界金融危機の新しい挑戦とリスク』(第5章コメント). 東京大学出版会.

[研究報告・研究発表]

太田亘 (2023年5月21日). 「指値注文市場における発注行動と価格形成」日本ファイナンス学会第31回大会, 早稲田大学.

太田亘・大屋幸輔 (2023年11月11日). 「証券市場における超過共変動と流動性」日本ファイナンス学会第5回秋季研究大会. (オンライン)

大竹 文雄

[著書]

大竹文雄 (2023年6月30日). 「行動経済学への期待と批判」[第7章コメント]. 大塚啓二郎・黒崎卓・澤田康幸・園部哲史編著『次世代の実証経済学』(pp.199–205). 日本評論社.

[論文]

Yamamura, E., Kohsaka, Y., Tsutsui, Y., & Ohtake, F. (2023, April). Association between the COVID-19 vaccine and preventive behaviors: Panel data analysis from Japan. *Vaccines*, 11(4), 810.

Yamamura, E., Kohsaka, Y., Tsutsui, Y., & Ohtake, F. (2023, April). Gender differences of the effect of vaccination on perceptions of COVID-19 and mental health in Japan. *Vaccines*, 11(4), 822.

Yamamura, E., Tsutsui, Y., & Ohtake, F. (2023, May 26). The effect of primary school education on preventive behaviours during COVID-19 in Japan. *Sustainability*, 15 (11) 8655.

Lee, S. Y., Sasaki, S., & Ohtake, F. (2023, October). Wearing school uniforms in childhood linked with wearing Anti-COVID-19 masks in adulthood through other-regarding preferences: An instrumental variable approach. *CiDER-DP*, DP006.

大竹文雄 (2023年12月1日). 「行動経済学の政策応用：防災対策、感染対策、ワクチン接種」『RESEARCH BUREAU 論究』20, 5–18.

Kurokawa, H., Sasaki, S., Ohtake, F. (2024, February 26). The role of nudge-based messages on the acceptability and download of COVID-19 contact tracing apps: survey experiments. *The Japanese Economic Review*. (Online)

Yamamura, E., Tsutsui, Y., Ohtake, F. (2024, February 27). Surname order and revaccination intentions during the COVID-19 pandemic. *Scientific Reports*, 14(1), 4750.

[その他]

大竹文雄 (2023年4月6日). 「コロナ禍「三年のブランク」への懸念」[特集 逆襲の日本経済]. 『Voice』 545, 60–67.

大竹文雄 (2023年5月17日). 「現代のことば「5類」」『京都新聞』夕刊.

大竹文雄 (2023年9月3日). 「新型コロナ リスク判断 價値観次第」[地球を読む]. 『読売新聞』朝刊, 1–2.

大竹文雄 (2024年1月26日). 「武道指導者に行動経済学を—なぜ指導者は体罰の有効性を感じてしまうのか」[武道の可能性を探る = 第178回]. 『月刊 武道』 686, 70–74.

大竹文雄(2024年2月18日). 「男女雇用格差「貪欲な仕事」解消の壁に」[地球を読む]. 『読売新聞』朝刊.

[書評]

大竹文雄 (2023年5月13日). 「35人学級の費用対効果」[今週の本棚・評『少人数学級の経済学』

- 北條雅一著, 慶應義塾大学出版会]. 『毎日新聞』東京朝刊.
- 大竹文雄(2023年6月24日). 「信頼の広がりこそが文明の歴史」[今週の本棚・評『信頼の経済学』ベンジャミン・ホー(庭田よう子訳), 慶應義塾大学出版会]. 『毎日新聞』東京朝刊.
- 大竹文雄(2023年8月5日). 「効果的な政策を考える人が読むべき本」[今週の本棚・評『現代日本の消費分析 ライフサイクル理論の現在地』宇南山卓著, 慶應義塾出版界]. 『毎日新聞』東京朝刊.
- 大竹文雄(2023年11月3日). 「応用心理学との違い明示」[第66回日経・経済図書文化賞『行動経済学』室岡健志著, 日本評論社]. 『日本経済新聞』朝刊.
- 大竹文雄(2023年11月4日). 「共創制度やめ中心部に本社機能を」[今週の本棚・評『京都未完の産業都市のゆくえ』有賀健著, 新潮選書]. 『毎日新聞』東京朝刊.
- 大竹文雄(2023年12月23日). 「45の実践例で体感」[今週の本棚・評『実践仕掛け問題解決につながるアイデアのつくり方』松村真宏著, 東洋経済新報社]. 『毎日新聞』東京朝刊.
- 大竹文雄(2024年2月17日). 「学びのリターン データで検証」[今週の本棚・評『教育投資の経済学』佐野晋平著, 日経文庫]. 『毎日新聞』東京朝刊.

[学外活動]

- 『行動経済学会誌』編集委員, 任命権者・行動経済学会, 2011年12月1日-. (継続)
- 税制調査会特別委員, 任命権者・内閣府, 2013年6月10日-2024年1月24日.
- 尼崎市学びと育ち研究所所長, 任命権者・尼崎市, 2017年4月1日-. (継続)
- 日本学術會議会員, 任命権者・日本学術会議, 2017年10月1日-2023年9月30日.
- 新型インフルエンザ等対策推進会議委員, 任命権者・内閣官房, 2021年4月1日-2023年8月31日.
- 雇用政策研究会構成員, 任命権者・厚生労働省, 2023年6月1日-.

恩地 一樹

[論文]

- Onji, K. (2024, January–February). Who participates in corporate income tax consolidation?: Evidence from Japan. *Journal of Accounting and Public Policy*, 43, 107158.
- [研究報告・研究発表]
- Onji, K. (2023, August 16). *Takeovers and taxes: Evidence from a two-sided matching model*. Annual Congress of International Institute of Public Finance, Utah State University, United State.
- Onji, K. (2023, November 4). *Takeovers and taxes: Evidence from a two-sided matching model*. National Tax Association Annual Congress, Denver, United State.

小野 哲生

[論文]

- Uchida, Y., & Ono, T. (2024, February). Generational distribution of fiscal burdens: A positive analysis. *International Economic Review*, 65(1), 393–430.

大歳 達也

[論文]

- Otoshi, T., Murata, M., Shimonishi, H., & Shimokawa, T. (2023, June). Distributed timeslot allocation in mMTC network by magnitude-sensitive bayesian attractor model. 2023 IEEE 9th International Conference on Network Softwarization: Boosting Future Networks through Advanced Softwarization, *NetSoft 2023-Proceedings*, 212–216.

[学外活動]

電子情報通信学会デジタルプラットフォーム技術特別研究専門委員会 幹事補佐, 任命権者・電子情報通信学会, 2019年4月-. (継続)

大屋 幸輔

[論文]

大屋幸輔(2023年6月). 「日次情報による取引コストの計測」『先物・オプションレポート』35(6), 1-6.

脇屋勝・大屋幸輔(2023年12月). 「日経平均株価指数オプションをもとに算出したテールリスク指標について」『先物・オプションレポート』35(12), 1-6.

[研究報告・研究発表]

太田亘・大屋幸輔(2023年11月11日). 「証券市場における超過共変動と流動性」日本ファイナンス学会第5回秋季研究大会. (オンライン)

[学外活動]

現代ファイナンス編集者, 任命権者・日本ファイナンス学会, 2017年9月-. (継続)

Benjamin Michel Claude Poignard

[論文]

Poignard, B., & Terada, Y. (2023, July). Sparse factor models of high dimension. *Arxiv working paper*, arXiv: 2307.05952. (Online)

[研究報告・研究発表]

Poignard, B. (2023, August 21). *Sparse factor model of high dimension*. 10th International Congress on Industrial and Applied Mathematics - ICIAM, 早稲田大学.

Poignard, B. (2023, September 14). *Sparse M-estimator in semi-parametric copula models?* 共同研究集会 2023 : 接合関数(コピュラ)理論の新展開, 統計数理研究所.

[学外活動]

Visiting Scientist, Riken AIP, 任命権者・Riken AIP, 2022年4月1日-. (継続)

佐々木 勝

[著書]

佐々木勝(2023年6月). 「次世代の労働経済学研究に向けて」[「次世代の実証労働経済学」コメント]. 大塚啓二郎・黒崎卓・澤田康幸・園部哲史編著『次世代の実証経済学』(第4章). 日本評論社.

[その他]

佐々木勝(2023年7月). 「提言 選抜されるようになるために」『日本労働研究雑誌』5(7), 1.

[研究報告・研究発表]

佐々木勝(2024年3月12日). *Did COVID-19 deteriorate mismatch in the Japanese labor market?* 大阪公立大学大学院経済学研究科・研究セミナー, 大阪公立大学.

[学外活動]

労働政策審議会職業安定分科会雇用保険部会臨時委員, 任命権者・厚生労働省, 2023年4月-.

労働政策審議会職業安定分科会雇用対策基本問題部会臨時委員, 任命権者・厚生労働省, 2023年4月-.

労働政策審議会労働政策基本部会臨時委員, 任命権者・厚生労働省, 2023年4月-.

日本経済学会 理事, 任命権者・日本経済学会理事長, 2023年5月-.

佐藤 秀昭

[研究報告・研究発表]

佐藤秀昭 (2023年5月11日). *The impact of the Showa Depression on merchants in Osaka*. Economic and Business History WS, 大阪大学.

佐藤秀昭 (2023年11月26日). 「大阪における住友本店の担保金融」法と経営学会2023年度年次大会, 学習院女子大学.

佐藤秀昭 (2023年12月2日). 「三和銀行の設立 大口貸出先と担保の分析を中心として」経営史学会第59回全国大会, 熊本学園大学.

[学外活動]

経営史学会 研究組織委員会, 任命権者・経営史学会代表理事, 2023年4月1日-.

椎葉 淳

[論文]

Ishinagi, Y., & Shiiba, A. (2023, August). Management earnings forecast and financial statement complexity. *Journal of Accounting and Public Policy*, 42(4), 107072.

Murakami, Y., & Shiiba, A. (2023, October). Under what conditions does the manager withhold segment information? *Journal of Accounting, Auditing & Finance*, 38(4), 1009–1038.

[書評]

椎葉淳 (2023年9月). 「書評『Python ではじめる 会計データサイエンス』 稲垣大輔・小澤圭都・野呂祐介・蜂谷悠希著, 中央経済社』『企業会計』75(9), 135.

[研究報告・研究発表]

小野慎一郎・椎葉淳・村宮克彦 (2023年12月16日). 「組替財務諸表を用いた企業ライフサイクルの識別」日本経済会計学会第4回秋季大会, 北九州市立大学.

[学外活動]

Associate Editor, *The Japanese Accounting Review*, 任命権者・Editor, *The Japanese Accounting Review*, 2011年4月1日-。(継続)

日本経済会計学会『ディスクロージャー研究』学会誌編集委員, 任命権者・日本経済会計学会常任理事会, 2017年2月1日-。(継続)

Associate Editor, *Accounting Letters*, 任命権者・日本経済会計学会, 2017年7月1日-。(継続)

日本管理会計学会 常務理事, 任命権者・日本管理会計学会常務理事会, 2023年4月1日-.

鈴木 敦子

[論文]

鈴木敦子 (2023年5月). 「飯塚一幸編『近代移行期の酒造業と地域社会』へのコメント—小西新右衛門家における大名貸研究に寄せて—」『歴史科学』253, 52–57.

鈴木敦子 (2023年5月). 「三井越後屋の「小判六十目之掛法」—正徳・享保期の物価・通貨に関する市場分析と商家の対策—」*Discussion Papers in Economics and Business*, 23-06. Graduate School of Economics, Osaka University.

鈴木敦子 (2023年7月). 「江戸小判六十目」*Discussion Papers in Economics and Business*, 22-04-Rev.2. Graduate School of Economics, Osaka University.

小椋菜美・鈴木敦子・深町加津枝・柴田昌三 (2023年12月2日). 「正徳・享保期の京都における

る菊の流行と植木屋仲間の起源に関する考察』『ランドスケープ研究（オンライン論文集）』
16, 115–125.

[書評]

鈴木敦子（2023年9月）。「書評『近江商人と出世払い—出世証文を読み解く』宇佐美英機著」『経営史学』58(2), 66–69.

[研究報告・研究発表]

高田郁・鈴木敦子（2024年3月3日）。「古典籍でひもとく江戸時代のくらし」大阪府立中之島図書館開館120周年記念一本を読む楽しさ、図書館で調べる面白さ再発見—、大阪市中央公会堂。

[学外活動]

公益財団法人奈良屋記念杉本家保存会 古文書調査員、任命権者・公益財団法人奈良屋記念杉本家保存会理事長、2008年4月1日－。（継続）

企業史料協議会くずし字研究会 講師、任命権者・企業史料協議会会长、2013年7月9日－。（継続）
大阪府立中之島図書館くずし字入門講座 講師、任命権者・大阪府立中之島図書館指定管理者
ShoPro・長谷工・TRC 共同事業体統括責任者、2023年8月26日－9月30日。

竹内 恵行

[著書]

Takeuchi, Y. (2023, May). History of modern business education in Japan. In Kambayashi, N., Hirano, K., & Mitsui, I. (Eds.), *A pioneer of management research and education in Japan: Challenges from Kobe University Business School* (Chapter 2, pp.13–39). Springer.

Takeuchi, Y. (2023, November). Realism, science, statistics, and data science. In Urai, K., Katsuragi, M., & Takeuchi, Y. (Eds.), *Realism for social sciences: A translational approach to methodology* (Chapter 3, pp.247–256). Springer.

[学外活動]

同志社大学嘱託講師、任命権者・学校法人同志社理事長、2022年9月21日－2024年3月31日。

谷崎 久志

[著書]

谷崎久志・溝渕健一（2023年6月）。「計量経済学」新世社、サイエンス社（発売）。

[論文]

Lu, Z., & Tanizaki, H. (2023, October 10) . The response of gold to the COVID-19 pandemic. *Studies in Economics and Finance*, 40 (5), 859–877.

Saito, A., & Tanizaki, H. (2024, February 14). Volatility and returns of ESG indices: Evidence from Japan. *SN Business & Economics*, 4 (3).

[学外活動]

日本統計学会代議員、任命権者・日本統計学会、2021年6月1日－2023年6月1日。

鶴田 まなみ

[研究報告・研究発表]

鶴田まなみ・田口聰志・上條良夫（2023年11月25－26日）。「A more optimistic bias in belief updating additional information about a friend's abilities: An experimental study. 第26回実験社会科学カンファレンス」、早稲田大学。

鶴田まなみ・田口聰志・上條良夫（2024年3月1－2日）. *A more optimistic bias in belief updating additional information about a friend's abilities: An experimental study*. 関西大学RISS ワークショッピング：情報工学、理論経済学、実験社会科学の結節点を探る、関西大学。

[学外活動]

東京医科歯科大学 非常勤講師、任命権者・東京医科歯科大学、2022年4月1日－. (継続)
 学校法人東北学院 非常勤講師、任命権者・学校法人東北学院、2022年4月1日－. (継続)
 同志社大学技術・企業・国際競争力研究センター 嘱託研究員、任命権者・同志社大学 技術・企業・国際競争力研究センター、2022年4月1日－. (継続)
 大阪大学 社会経済研究所行動経済学センター 兼任教員、任命権者・大阪大学社会経済研究所行動経済学センター、2022年7月1日－. (継続)

浦井 憲

[著書]

Urai, K., Katsuragi, M., & Takeuchi, Y. (2023, November). *Realism for social sciences: A translational approach to methodology*. Springer.

Murata, Y., Shiotani, K., & Urai, K. (2023, November). Dynamic constitution for the place of reality to enclose and nurture our knowing: Realism as a methodology of science. In Urai, K., Katsuragi, M., & Takeuchi, Y. (Eds.), *Realism for social sciences: A translational approach to methodology* (pp.83–110). Springer.

Kobayashi, D., Murakami, H., & Urai, K. (2023, November). Reality of public goods and public finances from the general equilibrium analysis, with a case study in public health during the COVID-19 pandemic. In Urai, K., Katsuragi, M., & Takeuchi, Y. (Eds.), *Realism for social sciences: A translational approach to methodology* (pp.149–168). Springer.

Kobayashi, D., Murakami, H., & Urai, K. (2023, November). Memento mori in medicine and the universality of forces from below: On the reality of markets. In Urai, K., Katsuragi, M., & Takeuchi, Y. (Eds.), *Realism for social sciences: A translational approach to methodology* (pp.169–200). Springer.

[論文]

Urai, K., Murakami, H., & Chen, W. (2023, April). Generalization of the social coalitional equilibrium structure. *Economic Theory Bulletin*, 11 (1), 1–25.

[学外活動]

数理経済学会方法論部会幹事、任命権者・数理経済学会、2013年4月1日－. (継続)

上須 道徳

[その他]

Uwasu, M., Kuroda, M., Fuchigami, Y., & Hara, K. (2023, December). Time framing and SDGs: can imaginary future generations alter people's perception and attitude? *Proceedings of EcoDesign 2023*, 944–949.

[研究報告・研究発表]

Uwasu, M., Kuroda, M., Fuchigami, Y., & Hara, K. (2023, November 30). *Time framing and SDGs: can imaginary future generations alter people's perception and attitude?* EcoDesign 2023, Nara Convention Center.

[学外活動]

社団法人北の風・南の雲 理事, 任命権者・社団法人北の風・南の雲, 2022年4月1日-. (継続)
 特定非営利活動法人エコデザイン推進機構・エコデザイン学会連合 理事, 任命権者・特定非営利活動法人エコデザイン推進機構, 2022年7月1日-. (継続)

渡辺 周

[著書]

渡辺周 (2023年12月8日). 「組織の〈重さ〉: 全7回の調査からの知見」加藤俊彦・佐々木将人編著『「行為の経営学」の新展開: 因果メカニズムの解明がひらく研究の可能性』(第5章, pp.91-112). 白桃書房.

[論文]

渡辺周 (2024年1月). 「エージェンシー理論におけるエージェンシーの偏: 経営者の認知・情報処理に注目した企業統治論へ向けて」『日本経営学会誌』54, 65-79.

[学外活動]

組織学会 組織科学編集委員会 編集委員, 任命権者・組織学会理事, 2023年9月1日-.
 組織学会『組織科学』シニアエディター, 任命権者・組織科学編集委員会委員長, 2023年9月1日-.

許 衛東

[その他]

許衛東 (2024年3月). 「「経済地誌」再構築の試みからの所感—記憶の継承を祈念するグローバル・ダイアログに寄せて—」三好恵真子・吉成哲平編『記憶の継承を祈念するグローバル・ダイアログ』(OUFC BOOKLET 18, 「21世紀課題群と東アジアの新環境」シンポジウムシリーズ②). pp.113-117, 大阪大学中国文化フォーラム.

[研究報告・研究発表]

魏晶京・許衛東 (2023年9月17日). 「「新型都市化」政策下の中国における地域間所得格差は拡大したか? 縮小したか~「全体住民の1人当たり可処分所得」による省間と省内の格差分析及び人口移動の影響について~」2023年日本地理学会秋季大会, 関西大学.

山本 千映

[著書]

谷本雅之・山本千映 (2024年3月). 「北西ヨーロッパ型家族」谷本雅之編著『日本経済の比較史』(3. 家族と経済, pp.53-59). 放送大学教育振興会.

谷本雅之・村上衛・山本千映 (2024年3月). 「議会と教区・公益団体—イギリスの場合」谷本雅之編著『日本経済の比較史』(4. 市場経済化と「公共財」供給, pp.85-91). 放送大学教育振興会.

谷本雅之・山本千映 (2024年3月). 「近世ヨーロッパの市場・産業化と技術」谷本雅之編著『日本経済の比較史』(5. 産業発展と技術・知識の創造と普及, pp.96-103). 放送大学教育振興会.
 山本千映 (2024年3月). 「産業革命と大分岐」谷本雅之編著『日本経済の比較史』(7. pp.137-156). 放送大学教育振興会.

[研究報告・研究発表]

森田陽子・ジョセフ ディ・山本千映 (2023年12月2日). 「19世紀イングランドにおける有配偶女性の労働供給行動」日本人口学会中部地域部会. (オンライン)

[学外活動]

日本学術会議 連携会員, 任命権者・日本学術会議, 2020年10月1日-. (継続)

社会経済史学会 常任理事, 任命権者・社会経済史学会代表理事, 2021年1月1日-. (継続)

山本 和博

[研究報告・研究発表]

山本和博 (2024年2月29日). *A welfare analysis of a monocentric city model under monopolistic competition with heterogeneous firms and VES preference*. 中央大学経済学部公開研究会, 中央大学.

[学外活動]

応用地域学会 運営委員, 任命権者・応用地域学会, 2022年4月1日-. (継続)

安田 洋祐

[著書]

三宅香帆・辻田真佐憲・安田洋祐・小川さやか・安田峰俊・三牧聖子 (2023年11月17日). 「経済学者と「戦略」を遊ぶ『ナショナルエコノミー』経営者になりきって経済のしくみを実感」
與那覇潤・小野卓也著『ボードゲームで社会が変わる：遊戯するケアへ』(第2章). 河出書房新社.

[論文]

Ishiguro, S., & Yasuda, Y. (2023, April). Moral hazard and subjective evaluation. *Journal of Economic Theory*, 209, 105619.

Corchón, L. C., Bevia, C., & Yasuda, Y. (2024, March). Folk theorem under bankruptcy. *SSRN Electronic Journal*, 4592166.

[学外活動]

総務省情報通信政策研究所「情報通信経済研究会」委員, 任命権者・総務省情報通信政策研究所,
2021年4月1日-. (継続)